

# 神戸地域夢会議「“楽しいまち・神戸”を創るⅡ」

と き 平成 17 年 2 月 26 日 (土) 10:00 ~  
ところ 県立舞子公園 舞子海上プロムナード  
参加人数 120 人

## 開催趣旨

「神戸地域ビジョン～21 世紀への夢提案」に描かれた神戸地域の将来像「楽しいまち・神戸」の実現をめざす様々な市民の多様な活動が進められています。地域ビジョン推進の県民行動プログラムの行動提案に呼応した取り組みの今後の展開方向や課題について、人口減少社会を踏まえながら、意見交換・討議を行いました。

テーマ 成熟社会の地域づくりを考える

## プログラム

- ・プレゼンテーション  
『成熟社会の地域づくりを考える』
- ・グループ討議（4 グループに分かれて討議）
- ・討議結果発表
- ・知事総括コメント



## グループディスカッション

### 「自然との共生のシンボル・六甲山」グループ（床谷 三鈴委員）

私たちの住んでいる神戸は、海と山に囲まれたとてもすてきな街ですが、実際に六甲山に行く方は大変少ないように思います。今日参加された方は、わりと六甲山にたくさん上がってくださっているのですが、よそで聞きますと、六甲山に上がってらっしゃる方はとても少ないので、残念に思います。

私たちは、実はあまり知られていない六甲山に楽しみを見つけて、多くの方が上がってほしいという活動を進めています。そこで今日は、「ここが良かった六甲山」いうのを挙げてもらいました。ビジョン委員会では、県立六甲山自然保護センターの周りを散策する道を紹介するマップを作成しましたので、ここを推薦したいと思います。

また、どうすればもっと六甲山に上がってもらえるでしょうか。たとえば、小学校で六甲山が身近になるような学習の時間を持つ、六甲山に上がる前にあらかじめお話を聞いて勉強しておくといいのでは、という意見もありました。

ビジョン委員会では、「楽しみ発見」という形で、年に3回ほど企画を立てているんですけども、ただ歩くだけじゃなくて、何か楽しいことをつけ加えてようと考えてやっております。楽しみを発見するということで、六甲山が好きになるんじゃないかなと思います。今日は食べる楽しみを付け加えてみては、という意見もいただきました。

これからも、もっと皆さんに六甲山の魅力を知っていただけるような活動を続けてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

知事：ビジョン委員の皆様方が、1期・2期にかけて活動を積み重ねてこれ、方向性がず

いぶん見えてきたんじゃないか、っていう気がいたします。六甲山の活動にしましても、単に六甲山ってのは、こんなところがあるぞ、ああいうところがあるぞ、っていうだけではありません。私たちの生活とどう関わりがあるのだろうか、というところまで論理が発展してきていますし、一方では、六甲の自然保護センターの周辺を含めて、自ら歩いて、自分たちでいわば掘り出し物を見つけて、それでマップ化するというような活動をしていただいていますね。

### **農都・神戸づくりグループ**（村上 忠孝委員）

「農都・神戸」というのは、高尚なことを言えば、生産地と消費地を結ぶというのが目標です。西区とか北区は、近郊農業の大きな生産地であります。ご存知でしたか？ビジョン委員会では、最初の1期2年は、生産に携わっておられる現地の方を訪ね、その姿とか情報を聞かせていただきました。本当にいいものがたくさん作られているんだということがよくわかりました。そうして得た情報を皆さんに紹介する方法として、「農都・神戸マップ」を作りました。

これからの農業について今日議論させていただきましたが、農業はまだユニバーサルデザインになっていない、誰でも参加できるようになっていない、という意見も出てまいりました。これからは、情報の共有がいちばん大事です。生産者の顔の出るものや、安心安全な作物づくり、おいしく料理できるレシピですとか、そういう情報をつければ、そうなのかと、安心して買われるのではないのでしょうか。生産者側からすれば、固定客を増やしていくということになるかと思えます。これからは、食育というところまで踏み込んで、何か提案できないだろうかと思っています。

また、行政のバックアップで、グリーンツーリズムバスを出していただくなどして、車椅子の方も訪れたり、貸し農園を利用したりできる機会も増やしていただけたらと思います。スタンプツアーのような企画も面白いのではないのでしょうか。ただし、くれぐれも食べ過ぎて私のように太らないようにしてくださいね。（笑）

知事：「農都・神戸」グループ、行動的ですからこのような地図を作るのがお好きなんですね。地図だけだと何が魅力なのか、よくわからない。訪ねてみて何かあるのかっていう未知の世界が広がっていたら面白いのではないかと思います。

### **グローバルな魅力づくりグループ**（長町 靖子委員）

グローバルな魅力づくりとは、実践活動としましては非常に広い、多様な問題のあるテーマでございます。そのぶんまとまりにくいのですが、本日は、自己紹介もかねて参加いただいた方がしておられる活動について発表していただきました。

外国語の教育サークルを立ち上げている方とか、地域のふれあいのまちづくり協議会の活動の中に、外国人との交流を取り入れてもらっているという方もいらっしゃいました。非常に大きく感銘を受けたのは、灘区の方で、防犯活動のサークルで高齢者の方と留学生の方が一緒に交流を深め、神戸大学の学生さんとも交流をもち、活動を進めているというお話でした。私の活動といたしましては、国際教育文化交流協会でいろいろ学習させていただきました。留学生支援ということで、生協(コープこうべ)に留学生のサークルをたちあげまして、バザーや会合に出席していただき、交流を持ちました。また、本日のお話では留学生をお呼びして語学教室を開催されたり、地域の集まりで語学をお互いに勉強しあい、交流を持たれたりしたところも多々ありました。身近なところでは、留学生によるお料理の講習をされたというところもありました。

外国の方との交流というのは、心と気持ちが大切であり、言葉は手段であると思います。これからも外国人の方と交流を持ち、日本の文化を伝え、あちらの文化を学ぶのが私たちの活動の目的ではないかと考えております。

知事：「グローカル」とは、グローバルとローカルをあわせた造語なんですね。私はいまの時代を見ると、ローカルとグローバルはつながっていると感じます。スマトラの大地震の津波の惨状は、わたしたちの阪神・淡路大震災直後の惨状と、ほんとうに一緒でした。同じような被害を、それぞれの地域がローカルに受けていますが、その課題はグローバルだ、と考えますと、まさしくつながっているんですね。そして「グローカル」という言葉が生まれ、交流をベースにいろんな活動や取組みを始められて、今日にきているということですね。

### 青少年の居場所づくりグループ（山中 修委員）

次の世代を担う青少年たちが夢を描いて、能力が発揮できるような場、きっかけを作ろう、それが居場所づくりになる、というテーマでお話しました。

アートを通じて子供自身の能力を引き出そうという取組み、ふれあいのまちづくり協議会の子ども屋台、児童館を巻きこんでの子どもフォーラムなど、さまざまな事例を挙げていただきました。

子どもと大人のさりげないコミュニケーションが大人たちに求められているのではないかと思います。子供たちが「ウザイ」と思うような環境だと、居場所づくりにはなりません。学校の教室を開放してもらい、そこを居場所にする試みも始まっています。また、世代を越えた取組みも必要です。高齢者の活動の中にも、小学生中学生高校生大学生が入るなど、そういう場がいろいろな所にできればいいと思います。

また、情報がなかなか伝わらないということも大きな課題です。私自身も毎月子ども科学実験教室をやってまして、人を集めようとしてるんですけども、なかなか集まらないですね。情報のある場所、子どもたちが行きやすい場所というものがあれば、そこに行くことで一つのきっかけができる。そういう場所を作ることが、一番大事な課題になってくるんじゃないかと思います。

知事：子どもたちとどういったふうにつながりを持つかというお話でした。アートを通じたり、あるいはお祭を通じたり、あるいはフォーラムや、研修を通じたり。これらは、子どもたちにとってみると、そういうつながりの持ち方自身が新しい発見につながってくる、ということだと思います。また、存在を受け入れてくれるところがほしい、というのは子どもたちもちろんですが、親や、我々自身の課題でもあるなあという感想を持ちました。

「楽しいまち・神戸」の活動が2年間、4年間の経過の中で、ずいぶん広がりや深みを増してきたなど、そんな思いがいたします。2期にわたって展開してこられた活動を、ぜひ地域地域で継続して行っていただきたいと思います。

